

菊池 忠信 議員

# 遠野市の馬事振興の現状と今後について市長の考えは

**市長** 馬生産者、施設運営者、行政が三位一体となって情熱を持って取り組むことが重要だ

**問** 遠野市乗用馬市場50回開催を終えた市長の想いは。

**市長** 50回開催にあたっての準備、これまで携わった関係者に感謝したい。率直に申し上げれば、上場頭数がもっとも多くあってもいいのではないかと感じている。

**問** 市の乗用馬生産数、生産者の減少に大きな危機感を感じるが、この現状をどう認識しているか。

**市長** この状況というのは何年も前から続いており、危機的な状態であると認識している。

**問** これまで市が講じてきた施策や支援を通じてきた馬事振興ビジョンの進捗管理はどのようになされてきたのか。

**市長** 馬事振興にかける支援事業として、平成25年から令和4年までの過去10年間乗用馬生産、馬事文化振興などの事業費に累計で約6500万円、さらに「馬の里」運営補助金を累計で約4億9400万円を支援してきた。



第50回「遠野市乗用馬市場」で上場され、最高額でセリ落とされた乗用馬「オルフェウス号」。所有者・生産者：遠野市畜産振興公社



乗用馬市場前日のイベント開催風景(人と馬が走ったダートリレーマラソン)

また、繁殖牝馬導入支援事業として新規参入者に対して30万円の支援、馬の里預託補助、新たな人材育成など、ハード、ソフト両面で支援してきた。

第3次遠野市馬事振興ビジョンの計画は、これまで続けた中での計画で、レベルの低い指標であったことから、概ね出来ていると判断している。

**問** 指定管理者である遠野市畜産振興公社の今後の振興策は。

**市長** このことについては、これまで試行錯誤を繰り返してきた中で具体的、建設的な考え方が提案されてこなかったことから持続的な経営をするために、生産者、施設運営者、行政の3者が情熱を持ち、想い、施策について議論しなければならぬ。

**問** これまでの「遠野馬の里」から、新たな「遠野馬の里」づくりの考えは。

**市長** これからのような準備をしていかなければならないか決めた。必要なら県内外にも営業を展開していくために、新しい「遠野馬の里」について関係者を集めて議論する場を今年中に設定する。

解説

**遠野市乗用馬市場** 乗馬が健全なスポーツとして全国的に普及の兆しを見せ、乗用馬の需要が拡大し始めた昭和46年に、当時の上閉伊畜産農業協同組合などが中心になり、遠野市乗用馬生産組合が結成され、3年後の昭和49年10月13日に22頭の初セリ(第1回乗用馬市場開催)が行われました。以来、今年で50回目の開催となりました。

**第3次遠野市馬事振興ビジョン** 遠野市の馬事全般を貴重な地域資源と位置づけ、日本を代表する乗用馬生産の確立を目指し、まちの賑わいを一層盛り上げ、「馬生産」「教育・福祉」「観光交流」との連携を推進するために平成24年度に策定され、現在は第3次(令和3年度～7年度)ビジョンの重要な中間年となります。

千田 由美子 議員

# 子育てするなら遠野の進捗状況を問う

**市長** 総合的に力をつけていかなければならない

**問** 令和2年から6年度までの第2次わらわすこプランの状況を問う。

**市長** 合計特殊出生率の最終目標を下回っており、少子化に歯止めがかかっていない。子育て施策として、これまでの事業に加え、産後ケア事業の拡充など新たな取り組みも実行している。

**問** 子ども医療費給付事業の現状は。

**市長** 本年10月末現在での、子ども医療費給付事業全体の給付世帯は1128世帯。受給者は2061人。所得制限により、受給対象外となっているのは645人である。

**問** 子ども医療費給付事業の見直しを検討すべきでは。

**市長** 所得制限の撤廃と一部負担金の無償化を令和6年8月から実施する予定で、検討を進めている。

**問** 高校魅力化の今後。

**市長** 来年度からは、公営塾を実施する予定である。

種別	受給者証番号	受給者氏名	生年月日	自己負担額	入院	有効期間	交付年月日
現物	99-99-99999-9	平成〇〇年〇〇月〇〇日	平成〇〇年〇〇月〇〇日	自己負担額等相当額1の額まで	自己負担額等相当額1の額まで	令和5年8月1日から令和6年7月31日まで	令和5年8月1日
現金	99-99-99999-9	平成〇〇年〇〇月〇〇日	平成〇〇年〇〇月〇〇日	自己負担額等相当額1の額まで	自己負担額等相当額1の額まで	令和5年8月1日から令和6年7月31日まで	令和5年8月1日

待望の予算化へー子ども医療費給付事業の拡充

**問** 関係機関との連携を深め、新たな魅力への取り組み等の提案を重ねながら、継続して入学者の確保に取り組んでいく。

**問** 未来づくりサポーター室の取り組みと今後。

**教育長** ジョイントスクール開設、English・キャラバンや障がいのある児童に、子どもの居場所作り事業を展開している。今後は事業の検証を行いながら充実を図る。

**問** 学力向上対策の取り組み状況は。

**教育長** 一人一台端末のドリルソフトを活用した個別学習などに取り組んでいる。特定教員に配置しているが、人数が足りない状況である。

解説

**子ども医療費給付事業とは** 乳幼児、小学生、中学生及び高校生の子どもの健康を保持することもに生活の安定を図り、福祉の増進に資することを目的として、県の単独事業に対し市が上乗せして、医療費の一部負担を給付している事業です。

**ジョイントスクールとは** 不登校の状態にある児童生徒に対して、学校生活への適応等に向け、専門的な支援員による相談や学習支援を実施する場。既存の「かりん教室」のほかに、令和5年度から東中学校区に「しらかば教室」、西中学校区に「ぎんが教室」を新しく設置しました。

**English・キャラバンとは** グローバルな人材の育成を目指し、子どもたちの英語に対する興味関心を引き出すため、「遊び+英語」による異文化体験活動を展開しています。体験活動を増やすため、地域の方や外国人の講師の協力を得ながら、週に1回程度、児童館や児童クラブを巡回しています。

り組んでいる。特定教員に配置しているが、人数が足りない状況である。



市民に愛される図書館を

**市民に愛される図書館を** 図書館の利用状況と現状における課題は。

**教育長** 減少傾向である。交通手段のない利用者が増えてきているのも一因である。交通手段のない利用者への対応として移動図書館を運行しているが、周知不足である。市の広報やテレビ等を活用し、積極的に周知を図っていく。

**問** 今後の図書館のあり方は。

**教育長** 誰でも気軽に足を運べる図書館であり続けられるよう、関係機関との連携を図っていく。